



- ① 東日本大震災被災地（女川町）支援活動
- ② 高校 ショートフィルムコンテスト
- ③ 中学 Meiji Walker

- ③ 創立100周年記念事業募金寄付者芳名
- ④ 第2回スピーチコンテストを実施しました
- ④ 100周年編纂余話、明校ひとくちメモ

東日本大震災被災地（女川町）支援活動を実施しました

このたび本校は、東日本大震災被災地（女川町）の支援活動を創立100周年記念事業の一つである鶴澤総明教育振興プログラムの一環と位置づけ、実施しました。この活動は「世界に飛び出し己を知ろう」という創立100周年記念事業のテーマに基づき、生徒自らが“調布”を飛び出し、被災地の現状を実見し支援活動に従事するものです。

この活動の目的は生徒が自分の眼で被災地を視察し、人々の思いを実感するとともに、生徒自身のインナートリップを通じた学習の契機とすることです。また、微力ながら被災地の復興に貢献することも目的の一つとしています。この活動は5年間を目途に継続する計画で、今回の訪問がその第1回目となりました。

今回の主な活動であるサッカー大会では地元小学生の懸命なプレーが印象的で、地元保護者の笑顔も絶えることがありませんでした。些少な支援ではありましたが、用意した炊き出しは2日間とも好評のうちに完食となりました。また、PTA会長の朝倉様は、全日程帯同され、本校生徒と朝の味噌汁、ハムエッグを作り、ベーゴマ500個を会場にて配付しながら地元の子供、大人との親交を深め、人々を温めてくださいました。

帰路では悪天候のため、予定よりも大幅に帰京が遅くなるハプニングもありました。東京駅到着時には全員疲れ切っていましたが、晴れやかな顔をしており、達成感と充実感を味わっていました。



東日本大震災被災地支援活動の日程

1月12日（土）	
午前8時	参加生徒16名（高校生）と引率教員、サッカー部監督が、本校からバスで出発
午後2時30分	石巻港到着。NPO法人JENの案内により、石巻港、門脇小学校、日和山、女川町の被災地を訪れ、現場で被災地の方より震災当日および現在についての話を伺う。
夕食後	JENの小暮様より当日の映像を見せていただき、宿舎にて講演を聞く。講演終了後、翌日の炊き出し（300人分）の準備。
1月13日（日）	
午前9時	サッカーの試合を開始（小学4年生以下のチームが中心）。
午後2時30分	エキシビジョンマッチとしてボランティア、地元コーチ陣、見学の小学生、本校生徒による試合を実施。
午後3時	当該日の表彰式を実施。全6チームに表彰状、参加賞、明大サッカー部員の色紙を手渡した。
夕食後	翌日分の炊き出し400名分の準備。
1月14日（月・祝）	
午前8時30分	サッカーの試合を開始（小学生高学年8チームが参加）。天候が急激に悪化したため、閉会式は大人のみで実施。
午後2時30分	東京に向けて出発。想定以上の風雪のため通行止めや大渋滞に巻き込まれ、長時間、貸し切りバス内に“缶詰”となった。校長の指示もあり、翌朝新幹線利用での帰京となる。
1月15日（火）	
午前8時30分	新白河駅（福島県）到着。午前9時30分発の新幹線に乗車。
午前10時45分	東京駅到着。校長の出迎えを受けた後、解散。

創立100周年記念校内行事を実施しました

高校 ショートフィルムコンテスト

1月25日（金）、本校鶴澤総明ホールにて、高校記念行事としてクラス単位で制作したショートフィルム作品を全校生徒の前で発表するショートフィルムコンテストを実施しました。このコンテストは生徒主体の行事を通じて創立100周年の機運を高めるとともに、改めて本校について学ぶ機会を設けることを目的としたものです。

ショートフィルムコンテスト 実施報告

教諭（高ⅠA担任） 駒形 くみ子

一昨年の12月頃、何か生徒自身が主体的にこの100周年の節目に関わることができないだろうか、というところから始まった企画であった。本校の歴史・伝統に触れながら生徒全員が、なるべくHR単位で参加できるものというミッションを与えられ、片や委員に立候補して集まった生徒たちは「楽しい」企画、エンターテインメント性の強いものをやりたいという意向が（予想通り）強く、2つの観点の摺り合わせに知恵を絞ることから委員会活動が始まった。私の頭にはいくつかの具体的アイデアがあったが、お仕着せではなく生徒たちが考え出したものをいかに形にして実現するかを優先したつもりである。普段、与えられた課題をこなすことには器用な本校の生徒たちだが、

企画を一から作っていくことの楽しさと困難を経験させてみたいと常々感じていたので、絶好の機会となると思った。議論の末にたどりついたのは、「明治の過去・現在・未来に関する知識を生かしたショートフィルムをクラス単位で制作し、コンテストを行う」というもの。前例のないイベントの企画・実行は手探りの連続であったが、生徒たちは素晴らしいチームワークと行動力で実現にこぎつけた。出来上がった作品もバラエティに富み、素人ながら若い感性が生きたものであったと思う。



中学 Meiji Walker

1月17日(木)、中学記念行事として創立以来95年間、校舎所在地であった駿河台・猿楽町の町を踏査するMeiji Walkerを実施しました。この行事は本校の歴史についての理解を深め、また旧校舎を実際に訪れることで改めて岸本辰雄先生・鶴澤総明先生ら創立者の思い・建学の精神に立ち返ることを目的としたものです。

「時代の変遷をたどる」

中学生徒指導主任 前島 研二

1月17日(木) 明治大学創立記念日の、中学生による「Meiji Walker」が行われました。東京駅を出発点として、班ごとに指示されたチェックポイント(有楽町にある明治大学発祥の地など)を通り、猿楽町旧校舎を経由してゴールのリバティタワーに向かうというコースです。

当日は天候にも恵まれました。各班、悪戦苦闘しながらチェックポイントを探していましたが、無事全部の班がリバティタワーたどり着くことができました。ゴールした班は、リバティタワーの食堂で「おしるこ」のプレゼントがあり、冷えた体をおしるこで暖め、みんな満足した顔をしていました。

「旧校舎のあまりの狭さ、古さにびっくりした」「男坂があんなに急な坂だとは思わなかった」など本校の歴史を感じることができたという感想も多く、企画や

準備、当日の運営をしてくれた高校生の100周年記念行事委員会の生徒たちに感謝したいと思います。

報告書の内容が素晴らしい班(各クラス1班)には、優秀班として賞品(めいじろうのストラップ)も授与されました。



旧猿楽町校舎の前で記念撮影

創立100周年記念事業募金寄付者芳名

2012.11.1～2013.1.31 まで到着分累計 29件 180万円

30万円

鹿島建設(株)

代表取締役社長 中村 満義 殿
松浦 三郎 殿

20万円

匿名 1名

10万円

(株)JTB法人東京 殿
鈴木 重之 殿

6万円

鄭 森豪 殿

匿名 1名

5万円

若原 正和 殿

匿名 1名

3万円

赤川 雅俊 殿

酒井 梨帆 殿

坂田 佳鈴 殿

佐野 宗昭 殿

中山 真一 殿

平石 雅嗣 殿

匿名 13名

1万円

匿名 1名

創立100周年記念事業募金の募集期間は3月31日をもって終了いたします。ご支援・ご協力ください誠にありがとうございました。

100周年編纂余話

明治中学校の校歌・校旗について

2011年4月から創立100周年記念史の編纂作業を開始し、これまで蒐集した資料や既刊の『六十年の歩み』や『九十年の歩み』に利用してきた資料を確認し、2012年11月に『明治大学付属明治高等学校・明治中学校校史関係資料目録』を刊行した。これらをもとに、現在、100年史の年表を作成中であり、5月の連休ごろには、原稿が完成する予定である。

資料の確認作業をしているとき、これまで利用されなかった資料のあることもわかった。そのひとつに初代教頭村田勤先生の日記があり、「事業NEWS」Vol.2で一部を紹介した。本校の草創期は、学校の様子を知ることができる資料が少ないので、この日記を『明高研叢』第九号（2012年11月）に全文掲載した。

本校は、式典で明治大学の校歌を斉唱している。『六十年の歩み』によれば、太平洋戦争後、連合軍CIEによって明治中学校校歌を歌うことが禁じられたので、校歌が歌われなくなり、「これに代って、生徒たちの間

に、いつか明治大学の校歌が歌われるようになった」、という。『六十年の歩み』に「禁じられた校歌」の作成時期は明記されていない。村田勤先生の日記を見ると、1915（大正4）年10月14日に「午後音楽学校に楠見氏を訪ふ 作譜の事快諾ほゞ出来したり」、とあり、その後、楠見氏・稲岡氏によって中学生の校歌練習が行われていたのである。この年の2学期終業式、卒業証書授与式で校歌が歌われたのか、記事がないので不明であるが、翌年の入学式に「校歌後解散」（1916年4月7日）とあるので、このときは校歌が歌われていたことがわかる。

『九十年の歩み』に校旗の写真が掲載されているが、校旗の制作に関する記事はない。これも1915年11月26日に校旗授与式を行ったという記事が村田勤先生の日記にある。校旗の色は四年生の意向で赤となっていたが、「一、二、三年生は紫を可とせし為改め」（同年11月18日）たのであった。いずれにせよ、校旗の色は在校生の意向で決まったことになる。

明治中学校は、開校してから3年ほど校旗や校歌がなかったことになる。

第2回スピーチコンテストを
実施しました

2月5日（火）本校鵜澤総明ホールにて第2回スピーチコンテストを実施しました。当日は明治大学からMichael W. Maksimuk教授（法学部）、関孝哉特任講師（商学部）Graham-Marr Hugh Alexander兼任講師（文学部）をお招きし、審査していただきました。第1回と同様に、出場者にはカナダ、イギリス、オーストラリアで実施される海外文化交流プログラムに参加するための奨学金が支給されます。

第2回スピーチコンテスト結果

参加対象：中1～高Ⅱ

第1次審査（原稿審査） 約700名→22名

第2次審査（予選会） 22名→10名

本選出場者 10名

本選結果

- 1位 中学3年B組 向井 杏樹
“The Things I Learned from Kendo”
2位 高校Ⅰ年G組 菊池 晃輔
“Laughter”
3位 高校Ⅱ年C組 杵淵 舞
“How to Become Global??”
4位 中学3年E組 古本 苑子
“Three Advice to Stop Bullying”
5位 中学2年C組 山際 久玲彩
“Enjoying Simple Life”

明校ひとくちメモ

グローバル化

元来、島国日本に住む我々は、その土地柄として異文化理解の意識は非常に低いようだ。この土地を北に行き続ければ、あるいはこの土地を西に行けば違う国があって、違う文化があるという意識がない。しかし維新以降150年余りがたってみると、もうそんなことは言えない。咸臨丸で品川からサンフランシスコまで2ヶ月半も要したころとは違う。地球は本当に小さくなった。明治大学のグローバル化を受けて、本校も100周年記念事業でグローバル化に踏み切った。昨年に限っても、オーストラリア、中国、ルーマニア、ハンガリー…、さまざまな国の方々が来られた。生徒諸君も大いに世界に羽ばたいてほしい。101年目はここから始まる！



● 次号のお知らせ ●

第7号は2013年7月下旬に発行予定です。